

Ⅰ 目指す学校像

帝塚山学院が設立にあたり提唱した「力の教育」を実現し、意志の力、情の力、知の力、躯幹の力といった、広い意味の力の漲った強い人物を育成する。

1. 活力ある人間の育成
2. 創造性豊かな人間の育成
3. 協調性ある人間の育成
4. 国際感覚豊かな人間の育成 を目標とする。

2 中期的目標

Ⅰ 教育力の強化

（1）進路指導，学習指導

- ① 生徒一人ひとりの進路実現
- ② 現役国公立大学合格者数の増加

（2）生徒指導

- ① 基本的な生活習慣（遅刻の防止，清掃の徹底，挨拶の励行など）の確立，安心安全な学校生活の充実を図る。
- ② いじめ対策について

（3）特別活動

- ① 自主性のある活動の促進，学校行事・課外クラブ活動の充実

2 組織力の強化

3 財務基盤力の強化

（1）入学生の確保

（2）施設の整備

【自己評価アンケートの結果と分析・学校運営協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校運営協議会委員からの意見・感想
【教育活動に関して】 ・「授業は、生徒の理解や成長につながる工夫がなされている」・・・84.6% ・「教育目標や育てたい生徒像は、教職員に十分共有されている」・・・79.5% ・「教科・学年間の連携は、学校として効果的に行われている」・・・74.4% ・「学習評価の在り方は、生徒の学びを支えるものになっている」・・・71.8% ・「授業改善や指導力向上に向けた取組が、学校として機能している」・・・69.2% 肯定率が80%台は1項目、70%台は3項目、60%台は1項目である。 授業の工夫がなされているか、教育目標が共有されているかの問いに関しては80%前後の肯定率が得られたが、連携、授業改善や指導力向上に関する問いは70%前後の肯定率であった。 授業改善、指導力向上に関しては、現在実施している授業見学週間の充実を図る必要がある。 【生徒指導・いじめ対応に関して】 「いじめが疑われる事案について、早期に情報共有し対応する体制が整っている」・・・97.4% 「いじめの未然防止に向けた取組が、学校として計画的に行われている」・・・94.8% 「いじめ対応において、特定の教員任せではなく組織的な対応がなされている」・・・92.4% 「被害生徒の心身の安全を最優先とした対応が、学校として徹底されている」・・・92.3%	・高校と同様、大学も今後10年どのように存続するかを常に考えなければならないところにいる。少子化は大学も高校も変わらない。資源のない日本では、人材育成が非常に大切になる。 ・探究活動を高校と大学がどのように連携していくかを模索する必要があると感じた。 ・勤務管理については、非常に気になるところ。 ・年に2回ほど関わる機会がある。自転車通学の生徒に挨拶をするが、ちゃんと挨拶を返してくれる。 ・地域としては、私立の中高、大学があると非常にありがたいので、交流を続けていきたい。共栄できる間柄でありたい。 ・同窓会として、現役の高校生の大学受験を支援したい、就職活動で連携したい、就職後のビジネスマッチングをしたいという思いがある。 ・休日の食堂での自習室開放は非常にありがたい。受験指導もよいタイミングで行っている。 ・保護者の皆さまもPTA活動に積極的に関わってくださっている。 ・生徒会の話が印象に残った。自分が学生の頃は、生徒会がなく、意見を言うという機会はなかったし、先生の言うことを守っていたという感じであった。母校が変わってきている感じを受けた。 ・どのようなことを解決すれば学校生活がよくなるかを想像することは探究活動につながるのではないかと、魅力的な学校作りの参考になる。

「いじめ対応の方針や流れについて、教職員間で共通理解が図られている」・・・87.1%

いじめ対応については、高評価を得られている。引き続き、継続する。

【学校運営・組織体制に関して】

「不測の事態(事故・トラブル等)に対して、学校として迅速に対応できる体制がある」・・・82.1%

「管理職のリーダーシップは、学校運営において適切に発揮されている」・・・64.1%

「校務分掌や業務分担は、学校全体として適切に機能している」・・・61.6%

「教職員が安心して意見を述べられる組織風土がある」・・・61.5%

「学校運営の方針や意思決定の過程は、教職員に分かりやすく共有されている」・・・59.0%

「業務の効率化や働き方改善に向けた取組が進められている」・・・59.0%

「教職員の意見や提案が、学校運営に反映される仕組みがある」・・・51.3%

不測の事態への対応に関しては 80%以上の肯定率であったが、それ以外の項目は 50%台～60%台と低い肯定率であった。

業務の偏りの改善や効率化の推進を進める必要がある。

【総合評価に関して】

「教職員が専門性を発揮しやすい学校である」・・・82.0%

「生徒の成長を実感できる教育を実現している学校である」・・・79.4%

「教育の質の向上に向けて継続的に改善が行われている学校である」・・・74.4%

3 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重 点目標	具体的な 取り組み	評価指標	評価	課題と改善策
教育力の強化	Ⅰ 進路・学習指導 ・生徒一人ひとりの進路実現 ・現役国公立大学合格者数の増加	・通常授業の充実 ・定期補習，夏期セミナー，冬期セミナー，2次直前対策講座の充実	「授業の内容や方法は理解しやすい」（保護者アンケート Q3） 「生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導が行われている」（保護者アンケート Q4） 「学習への意欲を高める工夫がされている」（保護者アンケート Q5） 「進路に関する情報提供が十分に行われている」（保護者アンケート Q6） 「生徒の進路希望を尊重し，適切な助言がなされている」（保護者アンケート Q7） 「進路について相談できる体制が整っている」（保護者アンケート Q8） 「授業改善や指導力向上に向けた取組が，学校として機能している」（自己評価アンケート Q4）	【肯定率】 中 86.5% 高 88.8% 【肯定率】 中 64.6% 高 62.6% 【肯定率】 中 69.3% 高 70.9% 【肯定率】 中 85.0% 高 85.3% 【肯定率】 中 74.6% 高 80.7% 【肯定率】 中 74.9% 高 78.3% 【肯定率】 69.2%	7月下旬に教員全体での研修を実施予定。また，8月上旬には，教科別の研修を実施予定。授業見学週間も例年通り設定。 中高とも，放課後に補習を実施。 夏期休暇中は，高3が夏期セミナー，高1，2も補習授業を実施。 進路指導部主催の全教員対象進路講演会を引き続き実施。各学年別の進路講演会も実施。

	2 生徒指導 ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 安心安全な学校生活の充実を図る ・ いじめ対策について	・ きめ細やかな遅刻指導，マナー向上の呼びかけを実施 ・ いじめ対策の実施	「生活習慣や規範意識の指導が適切に行われている」（保護者アンケート Q10） 「いじめの未然防止に向けた取組が，学校として計画的に行われている」（自己評価アンケート Q6） 「いじめ対応において，特定の教員任せではなく組織的な対応がなされている」（自己評価アンケート Q8）	【肯定率】 中 86.5% 高 88.1% 【肯定率】 94.8% 【肯定率】 92.4%	年 2 回のアンケートを実施。 また，STAND BY も用いて情報の共有を行う。
	3 特別活動 ・ 自主性のある活動の促進，学校行事・課外クラブ活動の充実	・ 課外クラブ活動への積極的な参加の呼びかけ	「部活動や学校行事は充実している」（保護者アンケート Q11）	【肯定率】 中 85.3% 高 74.5%	学校行事は取捨選択を行いながら，実施していく。
組織力の強化	組織力の強化	・ 不測事態への対応	「不測の事態に対して，学校として迅速に対応できる体制がある」（自己評価アンケート Q17） 「校務分掌や業務負担は，学校全体として適切に機能している」（自己評価アンケート Q13）	【肯定率】 82.1% 【肯定率】 61.6%	学年主任，分掌部長との相談のうえ，業務負担に関して対応する必要がある。

財務基盤力の強化	入学者の確保	・広報活動の強化	「この学校に入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思う」(保護者アンケート Q19)	【肯定率】 中 89.0% 高 83.9%	小規模の学校説明会を実施。
	施設の整備	・新規施設，現存施設の修繕を行う	「学校施設や環境は安全に配慮されている」(保護者アンケート Q13)	【肯定率】 中 92.5% 高 95.3%	改修の必要な施設は適宜改修する。

※ 自己評価アンケート，保護者による学校評価アンケートは 1：達成できている 2：ほぼ達成できている 3：あまり達成できていない 4：まったく達成できていない の 4 段階に分けて回答。肯定率とは，全ての回答における 1 と 2 の回答の割合のこと。

肯定率 [%] = (1 と 2 の回答数 / 全回答数) × 100 で計算した。